

夢に向かって生きる



大和北小だより
R4. 8. 26

「教室棟 校舎」とのお別れまで、あと4ヶ月

令和4年7月20日（火）記念撮影



夏休みを迎える前の最終日、7月20日。
全校の児童と職員で、教室の前で記念撮影を行いました。

令和4年12月23日（金）を最後に、児童と職員は、仮設校舎へと学校生活を移転します。そして、令和5年1月からは、「教室棟 校舎」の取り壊し工事が始まります。

つまり、児童も職員も、今くらしている「教室棟の校舎」とは、お別れを迎えることになります。

全校の児童と職員で、取り壊される前の「教室棟 校舎」と一緒に記念撮影をしておくことが、一人一人のかけがえのない人生の思い出のひと時となるといいな。と願っての記念撮影でした。

校舎の前の畑では、

大和中学校からいただいた ひまわりの花 もちょうど満開。
「JAめぐみの」さんのご協力で栽培している野菜も豊かに実る中での撮影となりました。

この畑にも、日々、子どもたちはたくさんの喜びや感動、野菜を含め、動植物の生命力のすごさを学ばせていただいています。来年度は、この畑もなくなり、この土地は、新しい校舎の一部となります。

慣れ親しんだこの「教室棟 校舎」での生活もあと4ヶ月となります。



児童の中には、まだピンときていない子もいるかも知れませんが、私たち職員は、夏休み中、日々眺めが変化していく体育館工事の様子や、仮設校舎の建築のための安全用の囲いが建てられていく光景を目の当たりにして、4ヶ月後に迫った「教室棟校舎とのお別れ」を本格的に意識し始めました。



7月20日



7月28日



8月2日



8月5日



8月25日

仮設校舎での生活は、児童にとっても、職員にとっても不便なことがあると予測しています。

また、環境の変化に対応するということは、かなり大きなエネルギーを要するものです。

でも、「校舎とのお別れ」に立ち会えることは、なかなか経験できることではなく、その人の人生の中に、何かしらの感動や、心揺さぶられたりする「ひと時」が生まれる機会とも考えます。

夏休み明け、子どもたちに、改めて伝えてみます。

「12月の終わり 君たちは この教室棟の校舎とお別れをするんだよ。」

「1月から この校舎は取り壊しが始まるんだよ。」

そして、こんなふうにも聞いてみたいと思っています。

「君たちは どんなふうにも校舎とのお別れを迎えたい？」

(子どもたちが この校舎で過ごした時間の長さは各学年で違うけど…どんなふうにも感じるのかな？ 答えるのかな？)

「命」とは「時間」 (2017年105歳で亡くなられた 聖路加国際病院名誉院長 日野原重明さんの言葉より)

「終わり」とか「別れ」を意識したとき、私たちは、これまで以上に、その人やモノと関わってきた「時間」や、残された「時間」について意識し、大切に見つめてみようと思いますよね。

そんな心の動きは、とても尊いものだと思います。

「教室棟 校舎とのお別れ」が、子どもたちにとって大切なひと時になるといいな」と思い、その日をどう迎えるのか 職員も一緒に考えていきます。

～こどもたちの短歌コーナー～

夏休みが明け “子どもたちの声” が学校に戻ってきました。
みんな無事で何よりです。ありがたいことです。



子どもたちの夏休み短歌 (抜粋)

～今回は、4, 5, 6年生の短歌より～

誰にとっても人生の中で一度きりの〇年生の夏。夏休みの出来事や感じたことが、写真や動画以上に、結晶のように短歌に留められていて素敵です。これが 短歌の魅力です。

いくつもの涙をみたよ 甲子園
情熱魂 ぼくも受け継ぐ

夏休み 家でゴロゴロ 楽しいな
ゴロゴロしすぎて 親のカミナリ

電線に すぐめのおやこならんてる
毎朝早く 起こしてくれる

夢はなび すぐきれいだ 感動だ
帰りは すぐく ビシヨビシヨでした

ひまわりの きれいなゆかた 身につけて
心はずませ おどりの中へ

ミンミンと ガミガミと
セミと母 そろって言うよ 勉強しなと

高原の ソフトクリーム すぐとける
トローリフワフワ いそいで食べる

川遊び 深いところで 足ついた
ぼくの身長 のびたのかなあ